

## 兵庫県水道事業のあり方懇話会（第1回）議事録

1 日 時 平成28年5月26日（木）15:00～17:00

2 場 所 兵庫県民会館「亀の間」

3 出席者

### （1）構成員

（学識経験者等）

佐竹関西学院大学教授、楢田神戸大学大学院准教授、岸本神戸新聞社論説委員

（市長会）

蓬萊小野市長

（町村会）

戸田多可町長

（水道事業者）

〔代理〕児玉神戸市水道局経営企画部長、長井姫路市水道事業管理者、

〔代理〕林養父市まち整備部長、遠山上郡町長

（用水供給事業者）

山中阪神水道企業団企業長

（兵庫県）

太田健康福祉部長、石井公営企業管理者

### （2）事務局

（兵庫県）

生活衛生課 名倉水道企画参事、西田水道班長 ほか

企業庁水道課 小浜経営参事、内藤副課長、長尾経営計画班主幹（計画担当）  
藤尾水道技術班長 ほか

水エネルギー課 中尾課長、大西水資源班長

市町振興課 宇野財政班長、上野財政班主幹（理財担当） ほか

## 4 主な内容

### （1）開 会

#### 事務局

本日は、皆様方におかれましてはお忙しい中、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

それでは、ただいまから、第1回兵庫県水道事業のあり方懇話会を開催させていただきます。

本日の司会進行をさせていただきます事務局の兵庫県健康福祉部生活衛生課水道企画参事の名倉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

座長が選出されるまでの間、事務局において当懇話会を進めさせていただきますので、よろしくお願い致します。

なお、本日の懇話会につきましては、後ほどご説明いたします当懇話会開催要綱に基づきまして、原則、公開しておりますので、念のために申し添えます。

それでは、開会にあたりまして、太田 兵庫県健康福祉部長よりご挨拶を申し上げます。

## (2) あいさつ

(太田健康福祉部長)

本日はお忙しい中、第1回水道事業のあり方懇話会にご出席いただきましてありがとうございます。

平素は本県の水道行政にご協力いただき、心より感謝申し上げます。

この懇話会でございますが、人口減少社会が進展する中、今後の水道事業の健全経営が困難となる事態が予測されるということで、そのような中、昨年度、戸田多可町長様をはじめとする県内6つの市町長様方が中心となり、「水道事業の今後のあり方を考える会」という検討会が開催されました。

この会では、人口減少社会の中で、水道事業にどんな課題があり、今後どうあるべきか、いろいろな形の広域化や財政支援方策、技術支援のあり方等々が議論され、報告書にまとめられました。これを、県や国に提言が行われました。

一方、国においても、この水道事業の健全経営のためには、広域化・官民連携が必要不可欠であるとして、総務省や厚生労働省から、県の関係部局が協力して広域連携に関する検討体制を構築し、検討を進めるよう通知がございました。

それらを受け、本県におきまして、今年度から懇話会を設置し、県がコーディネーター的役割を担い、水道事業のあり方を検討していくこととし、本日の懇話会開催となりました。

本県はご承知のとおり、自治体数も多く、水道事業もそれぞれ特徴を持った事業を行っております。

兵庫県ひとくくりに論じることはなかなか難しいことであり、一朝一夕に結論が導き出せることではございません。どうか、本日お集まりの構成員の皆様におかれましても、県内の地域特性を勘案し、非常に難しい問題を議論していただくことになると思います。

また、来週の6月1日からは、「じゃ口から 安心とどけ 未来まで」のスローガンのもと、第58回水道週間が実施されます。

この懇話会のご議論により、これからの本県の水道事業が健全に経営され、持続していくことが、県民の生活を支える「水道」というライフラインを守ることに繋がると考えております。

ぜひ皆様の忌憚のない意見をお借りし、今後の水道事業のあり方について、よりよい方向性が導き出されることをお願いいたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

## (3) 配付資料の確認

### 事務局

それでは、本日、お手元にお配りしている資料の確認をさせていただきます。

#### 【資料確認】

- ・ 次第・出席者名簿・配席図
- ・ 資料1 兵庫県水道事業のあり方懇話会開催要綱
  - 2 県内水道事業の現状と課題
  - 3 同懇話会 スケジュール (案)
- ・ 参考資料1 水道事業の広域連携の推進について (通知)
  - 2 昨年の考える会報告書 (提言書含む)
  - 3 県内水道事業ビジョン等策定状況等一覧

それに、日程調整表です。

それでは、過不足のお申し出がないようですので、次第の2の委員の紹介の前に、まず、資料1にありますように、当懇話会の開催要綱について事務局よりご説明させていただきます。

#### (4) 「兵庫県水道事業のあり方懇話会開催要綱」の説明

##### 事務局

それでは、資料1に基づきまして、「兵庫県水道事業のあり方懇話会開催要綱」の説明をさせていただきます。

##### 【開催要綱の説明】

このあと、座長の選出をしていただきますが、座長代理は構成員の皆様方の承認を得て、座長が指名できることになっていますが、事前に代理を指名させていただいても、皆様方はお忙しい方が多いためその方もご欠席になることも想定されますので、必要に応じて、皆様方の承認を得て、座長の指名により代理をおかせていただきたく、存じます。

#### (5) 各構成員のご紹介

##### 事務局

続きまして、次第2にあります、委員の紹介に移らせていただきます。

それでは、僭越ではございますが、私からお名前を申し上げますので、委員の皆様から簡単に自己紹介をお願いいたします。

##### 【委員紹介（欠席の場合はその旨と代理の紹介）】

水口委員の代理 児玉さんです。広瀬委員の代理 林さんです。

なお、門委員さんにおかれましては、淡路広域水道企業団への監査日が重なったため、代理もたてることができない状況になり、ご欠席でございます。

また、五味委員におかれましては、急な公務対応が入りましたので、ご欠席です。

#### (6) 座長の選任

##### 事務局

それでは、議事に入らせていただきます前に、まず最初に次第3にありますように、座長の選任をお願いしたいと存じます。

先ほどご説明いたしました 当「懇話会」開催要綱3（4）の規定によりまして、構成員の互選により座長を選任していただくこととなっております。

ご推薦も含めてご意見を頂戴したいと思いますのですが、いかがでございましょうか

##### 構成員

関西学院の佐竹先生を推薦させていただきます。

##### 事務局

ただ今、佐竹委員のご推薦がございましたが、その他、意見等がございますでしょうか？

ご意見がないようですので、佐竹委員が座長でよろしいでしょうか？

(一同) 異議なし。

##### 事務局

異議なしでございますので、佐竹委員に当懇話会の座長をお願いしたいと存じます。

それでは、お手数ですが、佐竹委員におかれましては、座長席にお移りいただけますでしょうか。

それでは、佐竹座長からひとことご挨拶をいただければと存じます。

## (7) 議 事

### 座 長

我々の分野ではパブリックビューティリティ。中々、民営化するのは難しい。規模に関して、料金に関して、難しいと伝統的に言われているけど、もちろん民営化の流れ、あるいは、広域化の流れ。技術の進展がある。技術の進展の中で、典型的なのは電話の民営化。いろいろなことが検討できる。水道に関しまして日本の全体のなかの潮流となってくる。結論ありきで進めさせていただくつもりはありません。勉強させていただきながらこの会に出席させていただきたい。

### 事務局

ありがとうございました。

それでは、本日の議事について佐竹座長に、進行をお渡しいたしますので、よろしく願いいたします。

### 座 長

それでは、本日の議事に沿いまして、これからは私の方で議事運営をさせていただきます。

なお、本日の会議は17時までを予定しておりますので、円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。それでは、まず水道事業の現状と課題について、事務局より説明願います。

## ① 県内の水道事業の現状と課題について

### 事務局

それでは、今回のご議論いただくに当たりまして概論ではございますが、兵庫県内におけます水道事業に係る現状と課題についてご説明をさせていただきます。

まず、今回、1回目ということで、概論として、1番目は県内人口と将来の給水量予測について、2番目に、事業体の経営状況について、3番目として、施設の状況、4番目に、技術職員の現状、最後に、県内水道事業の課題と検討方策についてということでご説明をさせていただきます。

まずは、県内人口と将来給水量予測でございますが、人口の見通しといたしまして、県内人口は2010年から比べて2060年には65%、35%減の366万人と見込まれております。

今般、兵庫県地域創生戦略の人口増対策というものをまとめておりますが、これを実施いたしましても、20%近い減、457万人に減少することが予想されております。

これは県の平均でございますが、県内市町別で見ますと、人口の将来見通し、人口減少率が地域によって格差がございます。特に、但馬・丹波・西播・淡路が減少率が著しく、2040年の人口推移予測は40%程度の減少率が見込まれています。逆に阪神間では、数%の減少にとどまっております。

次に、生活用水量の見通しがございますが、節水意識の高まり、或いは節水機器の普及、性能向上等を要因といたしまして、減少傾向にございますが、1997年からから2010年度の減少率、これのトレンドといたしまして、2060年を見通した場合には、現状の54%、171リットルに減少すると見込まれております。

このような人口減少と、生活水の使用量の減少これらを勘案いたしまして、水需要いわゆる給水量の見通しをたてますと、2000年をピークに減少に転じておりますが、2060年には、2010年に比べて43%に減少していくことが予測されております。

計画給水量の状況でございますが、県内の事業体の計画給水量は、このグラフに示している通りでございます。

人口の多い神戸、阪神間におかれましては、大きな給水量をお持ちでございますが、但馬、丹波地域では、かなり少ない計画給水量となっている現状でございます。

次に事業体の経営状況についてであります。県が取りまとめた事業体ごとの経常損益、あ

るいは昨年、県の市町振興課、生活衛生課、水道課が共同で行いましたアンケート結果から、ご報告をさせていただきます。

まず、事業体別の経営状況でございますが、県内には40の主要事業体がございます。

そのうち、7事業体が経常損益で赤字を計上しているという状況でございます。

一概に比較はできませんが、人口が現時点で少ない事業体にあつては、厳しい経営状態が見てとれます。

次に昨年実施いたしました経営状況等のアンケート結果でございます。

大きく三つの項目でアンケートを取らせていただきました。

一つが経営状況、もう一つが更新財源の確保、最後に値上げの検討状況でございますが、まず、経営状況ですが、昨年、アンケートを実施した際に、黒字経営であった事業体は27、赤字が13でございましたが、将来予測をしていただきますと、黒字経営が継続できる団体は11、赤字が見込まれる団体は21、現在、検討中ということで緑で示しておりますが、8事業体でございます。

ただこの8事業体におかれましても、赤字経営に組み込まれるというような予測もされております。

次に、施設の更新財源の確保でございますが、現状では、23団体で更新財源を確保されております。更新財源が現状で確保されていない団体は15団体ということでございます。

ただ、将来予測をされますと、先ほど申しますように、経営状況が厳しくなつて参りますので、更新財源の確保ができないであろうと見込まれる団体が21と増えております。

また対応を検討中ということで、9団体でございますが、施設の更新財源の確保が難しい状況にあることが予測されております。

また、値上げの検討状況ですが、昨年、アンケートを行った段階で、すでに値上げを実施された団体が7団体、値上げをしないと判断されておりました団体が30団体ございました。

ただ、将来の状況をお聞きいたしますと、先ほど来から申し上げますように、将来の経営状況の厳しさから、値上げを検討する必要があると思われる団体が12。

また、未定という団体も16ございますが、厳しい経営状況から値上げを検討せざるを得ないというような答えもございました。

次に、先ほど来申し上げております更新財源等の確保にかかわります国の予算でございますが、水道関係の国の予算は、平成10年度がピークで、当年度予算と前年度補正予算もあわせて、約3,000億円ございましたが、平成28年の予算では、当該年度予算と前年度補正予算を合わせても、620億、5分の1と大きく減少している状況でございます。

次に、事業体別の水道料金でございますが、県内の平均水道料金は、全国平均よりは低くなつていますが、県内で比較しますと、大きな格差が生じております。

これはそれぞれの水道事業体の歴史、あるいは施設の状況と原水の水質の状況等によろうかと思っておりますが、このような格差があるのが現状でございます。

次に、施設の状況でございます。現状の施設について、ご説明させていただきます。

県全体の水道の管路のうち、法定耐用年数は40年でございますが、その法定耐用年数を超過した管路は、ここ5年で5.3%増加しており、法定耐用年数を超えて、施設の運用することは可能ではございますが、老朽化が進んでいる現状でございます。

次に、管路更新の見通しでございますが、平成25年度の更新管路は全体の0.6%となっております。

全国の0.79%より低い更新率となっておりますが、老朽化が進んでおりますが、その更新が遅れている状況でございます。

次に、耐震化の状況でございます。県内の耐震適合率、耐震適合管を下に記載しております。

震度7クラスの地震においても、良質地盤に敷設されているため、被害が軽微な管路、水道管で

ございますが、過去5年間で、耐震適合化が1.3%進んでおります。

ただし、このペースで計算しますと、すべてを耐震適合化するには230年かかるというような状況で、なかなか耐震化が進んでいない状況が見て取れます。

次に、耐震化の状況で事業体ごとの耐震化の状況でございます。

先ほどの兵庫県あるいは全国の平均としておりますが、これも、県の平均でございますので、事業体ごとに耐震化、基幹管路からの耐震化の状況が異なっております。

県平均の41.2%上回っている事業体もございますが、それを下回っている事業体はかなりあるということが現状でございます。

次に耐震化の見通しでございます。先ほどは、管路のご説明させていただきましたが、これは施設でございます。浄水施設、あるいは配水池の耐震化の状況でございます。

配水池は建造物ですので、耐震化が容易でございますが、管路、浄水施設よりも高い耐震化率となっております。

ただし、それでも県の配水地全体で6割未満にとどまっている状況でございます。

施設の耐震化の状況でございますが、先ほど申しました県平均を下回る状態がまだまだあるわけでございます。

次に配水地の耐震化でございます。配水池については、先ほど申しましたように、耐震化がしやすいというような状況もありますので、他の施設に比べると、耐震化が進んでいる状況が見てとれます。

次に施設整備の状況でございます。施設能力と計画給水量、これは、ほぼ同じ状況でございます。

計画給水量に合わせて施設能力を整備しておりますので、実績ではほぼ同様でございますが、先ほど申しますように、給水量が減少していきますと、施設能力はすでに整備した施設でございますので、今後、同じ量で推移していきますが、水需要の減少が先ほどの人口減あるいは一人あたりの使用水量の減と勘案しますと、水需要が減少するということから、施設能力と給水量に差が生じて大きくなってきた。そうすると、ダウンサイジングを検討する必要があるかと思えます。

次に、技術職員の現状についてです。技術職員の推移については、地方公営企業決算状況調査で把握しておりますが、平成17年から平成26年までに約2割減少している状況でございます。

これは、各市町ともやはり行財政構造改革で、職員の減少、あるいは市町合併によりますスケールメリットから検証を進めておられますが、新規の採用が少なくということで、県内の水道事業に従事する技術系職員の年齢構成は、かなり高くなってきておまして、若手世代が少なく、技術継承が課題となっている現状でございます。

次に専門職の確保の状況でございますが、全体的に、専門職が不足する中で、将来に強い危機感が表れております。

特にこのグラフの下のコメントに赤で丸をつけていますが「計画策定」「設計・積算」、あるいは「設計施工」、「高度な知識」、こういったものの分野で大きな不安を抱えておられる事業体が多数ございます。

次に、最後、県内水道事業の課題と検討方策でございます。水需要の減少、それに伴います経営状況の悪化、施設の老朽化、耐震化の遅れが見てとれます。

また、職員が高齢化することによりまして、あるいは専門員が不足し、技術の継承が難しい状況にあります。

これらの課題に対しまして、この懇話会で検討をいただく内容でございますが、人口減少社会における健全経営の持続性の確保、水道施設の老朽化及び耐震化の推進、専門人材の高齢化不足に対するその対策でございます。

ただ、市町ごとに給水自体が異なりますので、抱えておられる課題は一樣ではございませんが、今回ご検討いただきます項目にまとめさせていただいております。

その後、検討方策といたしましては、健全経営の持続を確保するために、水道事業体の広域的な連携が必要になるのではないかと考えております。

あるいは市町への財政支援の方策が必要になる。

また、専門職員の不足による技術支援の仕組みづくり、こういったことが検討いただきたい項目でございます。

課題でも申しましたように、市町ごとの給水実態が異なるため、これに即した多様な検討が必要となると考えております。

最後になりましたが、参考資料といたしまして、広域化に向けた協議会等設置状況ということで、全国的に現在広域化に向けた検討の動きがございます。

すでに奈良県あるいは香川県では、実施方針が定められたところもございますが、現在、22の道府県で広域化に向けた動きがあり、20の道府県で協議会が設置されております。

最後に水道の広域化の形態でございますが、まず、事業統合といたしましては、事業を一体化するということが期待される効果といたしましては、施設整備、管理体制などの事業の効率的な運営サービス面の強化、ということがございますが、課題もございます。

また、経営の一体化といたしまして、一つの経営主体で複数を経営するということが考えられます。

これも同様に期待される効果がございますが、課題といたしましては料金格差が是正されないということが考えられる。

また、管理の一体化でございますが、施設の共同管理、あるいは、事務処理の共同実施を事務の委託等も含めて検討できないかと考えております。

効果といたしましては、一体化する業務に応じて、管理体制、事業の効率的運営等の面を強化できるということが期待されると考えております。

また、施設の共同化といたしましては浄水場等の施設を共同化、あるいは危機管理等のソフト施策を進めていくということが考えられます。

この場合は、施設整備、効率的運営の面が強化され、また導入が容易なのではないかと考えられております。

効果は施設面のみ、抜本的対策にならないのではないかとという課題も残されております。

以上で、概論ではございますが、県内の水道事業におきます現状と課題の説明を終わらせていただきます。よろしく申し上げます。

## 座 長

それでは進めさせていただきます。

課題と検討方向というものを示すことを今回は、できるだけ今日は広くご意見をちょうだいして、今後の検討課題、進め方に関する運営課題などのご発言をいただけたらと思っている。繰り返しますが、すぐに結論がでるような議論ではないと思われまので、どなた方からでも結構ですのでご意見ございましたらよろしく申し上げます。

## 構 成 員

先程の現状の話をいただいてですね、こちらへ車で来る時に、目の前にあるペットボトルが1本いくらか聞いたところ、仮に150円としたときに、小野市で150円でどれだけの水道水ができるかという計算をしますと、ペットボトル2,000本もできる。

つまり、我々としてはこれから考える上で、クオリティについて検討するのか、民も官も同じようにやっているわけだから、小野市の水道だけ言うのではありませんが検査項目51項目、ペットボトル15～18項目検査している。

時々市民に言うのは、小野市の水道水を飲んでもらったほうが実は安全なんですよと。

小野の水「おのみ〜ず」という水をたくさん作って、会議などで出している。市販の物は買わない。

150円で2,000本のペットボトルができるからです。というのは品質の問題ではない。

これは民がやっても官がやってもクオリティは変わらない。

その点、デリバリーという面でいくと、技術屋と市の職員は技術屋の顔をしていますけれど、ほとんどが発注して、イノベーション、民間が関わっていますから、そういう技術力は外部に求めればよい。

QCDはコスト、コストだけ考えれば、例えば、我々、小野市2,700円で2ヶ月に1回。20㎡で、一家族が使用している平均的な単価でいきますと2,700円かける2ヶ月で5,000円。あるいは多可町であれば4,000円としても2ヶ月で8,000円。20㎡で或いは一万円弱。

ところが東京で住んだことがあります、今息子が1万円で駐車場を借りています。広島で。私も2万円で駐車場を借りていた。

そうすると、1ヶ月駐車場を借りる料金と1ヶ月2ヶ月分水道水を使っている料金とではまだ水のほうが安いのではないかと。

ヨーロッパに行ったら、水を買うのが最初の仕事。要するに、最初から問題になるんですけども、水道代は本当に高いのか、ということによってクオリティを考慮するのか、コストを考慮するのか、デリバリーを考慮するのか、としたときに、コストに焦点をあてて今後の投資計画を考慮するのか、償却負担が増えるわけですから。コストがかかるから、その費用、キャッシュの問題を含めた課題として、絞って論議するのか、コストを安くするために考慮するのか、人口が減って全体需要が減って、投資が老朽化してくれば、コストプッシュするなんてわかりきってるわけです。

それでもなお、これは、起債を組んで、耐用年数40年というけど、イノベーションを考えれば、50年、60年。車なんかは車検2年に1回ではなくて、おそらく今のエンジンの中身を見れば7年でも8年でも使って問題ないです。

車検の制度でそうなっているだけ。そういう面で考えていくと、私は市長会の立場で物を考えなくてはいけませんが、本当に水は高いのか。まず何に対して高いのか。

つまり他の市町と比べて、自分の住んでいるところが高いのかという論議をしたらその通りなんだけれど、しかしグローバルに考えれば、水は他のものに比べて高いのか、という観点から考えると、今後の展開がかなり変わってくるから、これから議論を進める上に置いて、QCDにいうコストを中心として、設備投資も含めて考えていくなれば、全く展開の仕方は変わってくると思うし、大きくなれば必ずコストが下がるなんてあり得ない話だし、もう一つは地域特性があるわけです。弱みと強みが。

その辺で、同じ土台で画一的横並びで検討をするのは無理があって、そういう思いを持ちながら、小野からここへ来ました。その中でご批判いただいて、そこから、この水道事業のあり方の何かが見えてくる気がしてならない。

民営化、即コストダウンになりえない。イノベーションそんな簡単ではない。おそらく公設民営あるいは上下分離、何に絞って議論するのか。でないと、角度を変えると全く話の論点が変わってくるので、それだけよろしく願いたい。

## 構成員

まず上水とはユニバーサルサービスである。電力も一緒。電力をみてください。神戸でも多可町でも料金は一緒です。料金の問題だけ言って申し訳ないです。ユニバーサルサービス、電信もそうです。

それと同じものであるという認識のなかで、まずとらえるべきであるという風に思います。

衛生面など、いろんなことがバックにある問題ですので、いきなりその部分だけという訳にもいかないですが。

地方創生ということが言われています。地方創生の中で、都市部から田舎で人を戻さなければならぬというときに、戻ってこられた方がどうしてこんなに高いの？水道料金高いの？とおっしゃる。

いわゆる創生の阻害要因のひとつとなっている。これはまず間違いないような気がいたします。

決して料金のことだけを言うのではないんですけど、料金面ではそういうことがあるっていうことを含んでいただきたい。というふうに思います。

それと、専門人材の関係。小さな自治体の場合は確保が難しい。効率的にどうするかと考えたときに、例えば窓口であるということは考えられるけども。いわゆる専門の人材という方がむしろ大きな問題である。

## 構成員

料金の話がでていましたが、コストが高いか安いかということですがけれども、私どもの方では、やはり高いという市民がおられるため、どう説明していくのか悩んでいる。

それからユニバーサルサービスという観点からしても、最終的に事業統合、全部同じ事業体になるという議論と重なるかと思うが、何年先を目指して議論するのかということにつながると思う。

そのあるべき姿の中で、水道事業の沿革をみていると事業体ごとに非常に様々で違いがありますので、そこからきますとなかなか議論が集約しないかなと思っている。

そういう意味では、地域差があるということですので、この議論の土俵の作り方といったら、やはり県が出されています水ビジョンにも書かれていましたけど、兵庫県の特徴である五つの国に分けて議論するとか、或いは水は流域ごとに理解・歴史もあるので、この五つの国プラス流域を審議しながら、色分けして、事業統合とか考えている。

それで神戸は阪神地域にあるけれど、実は近隣市とのつきあいといいましたらエリアだけではなく、いざとなったときの連絡。水道の場合は安全というのがありますので、緊急連絡管というのをもうけています。

東播エリアにあります、明石市とか三木市と稲美町とも普段そのような交流がありますので、あるいは淡路市とかありますので、単純に切り分けていいのか、兵庫県の北と言えば京都府とか鳥取県とかの方が近いと言うようなことになりまして、あるいは阪神間でいえば大阪さんとかですね。そういう県を超えたところとの連携なんかも必要なんじゃないかなと思う。

## 構成員

水道に来るまでは行革におりました。

行革では、総務省の要請による公共施設の総合管理計画の策定に取り組んでおりました。他方で、同時期に公営企業については経営戦略、国交省は、立地適正化計画、もう一方の動きでは、PPP、PFIの地域プラットフォーム、がつくられるなど、公共施設を巡る動きが、良くも悪くも、多重かつ多様に進んでいると感じたまま、水道の方にきました。

価格の問題ということですが、利用者の側からみて、公共施設全体の中で、水道料金が他に比べて、どうとらえられているのかと考えると、先ほど、おっしゃったことは非常によくわかります。

今、現在もある水道関係の雑誌では、水道について、社会的共通資本という面からの議論が、なされているところを興味深く見ていますが、財政支援の面からは、大きい話として、他のサービスに比べ、水道施設のプライオリティ・選択の問題で、ここをよく整理しないと、有効な支援は得られないと思います。

他方、実務面から見ますと、事業統合は、長期的には、なるほどそうなのかもしれませんが、国

が「できることから」と言っているように、まずは一部施設の共同利用など、県や近隣の市町さんとの協力できる部分を広げることがひとつ、ふたつに、技術者の育成では、下水道事業の場合は、県の外郭団体に技術的な支援の場所があるように、広域的な支援の機関・場の確保というような部分からこの懇話会の中で方向性ができれば、非常に助かるなと思っています。

## 構成員

広域化っていうなかで、先ほどお話しがありましたけれども、広域化で最初に、ブロックありきという考え方をしているのか。

その、料金を一番安くする、できるだけ下げられるようにするにはこういう形がいい、そこからブロックを考えていくのか、それとも、ブロックの中で一番広域化しやすい、たとえば窓口業務一本化するだとか、その程度で終わるところもあれば、もっと深い隣の市との配水池であるとか、そういう施設を統合さしていくというのはできるかもしれないけれど、但馬の方は隣の市町とばかり、距離的にも長い。それを鳥取県ですとか、近隣の市町とが連携するとなればかなり経費がいるというようなことで、本当に純粋に料金を下げることが目的にするなら、そこでブロックを決めていったらいい。

広域化のエリアというか、そういった国の考え方をするのか、できるだけ広域化ということ5つとかいう国を設定してから、それぞれの中でよりベターな方法を考えていくとか。

そのあたりどちらになるかということが、いいかなというのがありまして、またみなさん、これが議論になるかわからんですけど、またみんな考えていけたらいいなと思います。

## 構成員

今回の名簿を見てですね、県は非常に力が入っているんだ、というのを感じまして、ここにある4つの課題を単独の町だけで解決するのは非常に難しい、というふうに考えておきまして、できるだけ県の方はしっかりと方針をもってやっていただければ、われわれついて行きたい、というふうに感じております。

ただ、27年度の水道事業はですね、我々のところは、黒字で終わっています。

ただ給水原価が単価を上回っておりまして、実質的には赤字なんですけれども、大きな基金をもってまして、その運用で利益を出しています。

さきほど話しましたように、我々の財政で水道や下水道を含めて運営していくのは非常に難しいというふうに感じております。上郡町の立場で言えばできれば、いろんな面で一緒にやることがあれば、一緒にやらしていただきたいという風に思っています。

## 構成員

水道法の理念として清浄にして豊富・低廉と記載されています。おそらくこの3つは優先順位がありまして、まず、とにかく水道水は安全であるということだと思います。その次に安定的に供給、そしてできるだけ低廉ということなんです。

私どもの料金は用水供給では安い方の部類に入ります。ところが水道事業の経営は厳しい現状がありまして、この15年くらいずっと値上げせずにやってきており、経営状況はやはり厳しい状況にあります。

今後の取り組みとしては、今ここに書かれております広域化、広域連携を進めていく必要があると考えています。広域化そのものにつきましては、やはり非常に難しいというか、壁がいろいろあります。簡単には乗り越えられない。一番言われるのが料金を統一することです。

広域連携について、いろいろ共同して研究して、どこまでできるかということ、これからやっ

考えています。

水道水の供給にはいろいろな意見があります。水道水は必需品であり、ペットボトルは嗜好品・贅沢品ですから、ペットボトルでお風呂に入るとおそらく何万ってかかるのですが、そんな高価なもののみならず堂々と飲んでいる。我々子供の頃は水道水しか飲んでないというか、遊んで帰ってすぐ水道水を飲みましたし、体操の時間の後も水道水に走って行ったものです。

嗜好品と必需品で考え方が全然違うのですが、最近の水道水の質はペットボトルにもひけをとらなくなってきているので飲んでいただけないのは残念です。

もう一つはやはり水道は装置産業なんです。だから、需要が伸びてるときはいいんですけど、ある一定の規模で需要が減ると途端に厳しくなる。例えば、需要の減り方なんかもある一つの街がまるまる無くなってしまえば、これはダウンサイジングが実に簡単です。しかし、実際にはそんなことにはならず、需要は、まだらで減っていくわけで、装置そのものはあまり変わらず必要なんです。それで水量が減ったから値下げしろと言われてもなかなか難しい話がある。

今の状況をお話しているだけですが、いろんな意見をお聞きしながら社会の変化に対してやれることはやっていかないといけないと思っています。広域化というのは規模の効果だと思えます。少しでもやれることから取り組んでいきたいと考えています。

## 構成員

さっき料金の話がでていましたが、私も戸田委員に近い発想でありました、水は必需品だとおっしゃっていましたが、やっぱり、命に関わるものである。

災害がおこると電気ガス水全部止まると電気ガスも大変ですけど、水は命に関わる問題である。

この水について、各地域で料金に格差があると言うことが、あるいは料金を競うと言うことですね、個人的にはどうかなと、安全安心ということ、公営で任されていて、そこで経営努力をされたり、おいしい水、まずい水・・・があるかはわからないですが、やってらっしゃるなかで、安いところが上がるって言うのがね、それは厳しいなと思うんですけど、そこは助け合っというところを考えると水ってというのはそれに近いものがあるという感想を持っている。

何を優先するのかというのが難しい、すべて課題が多いので、料金を何とか抑えるというのを優先するのか、耐震化というのも非常に重要だろうなと今回熊本地震があつてなかなか、今の感じでは厳しいという感じである。

一方で、料金が安いけど、耐震化が全然進んでないという地域もあつて、それは料金を優先されているのかわからないですが。

それも大きな問題で、やっぱり何を優先するのが大きな問題・課題なのかなと感じました。

## 構成員

今回、県の方でいろいろ資料をまとめていただきましたが、この懇話会でどこまで議論をするのか、また最終の落とし所をどこに設定するのが、まだはっきりしていないように思います。

もともと厚労省の基盤強化の委員会の方でとにかく数年以内に県内の水道をいくつかブロックにわけて広域化を考えていくという方針があるのに準じてこの懇話会が設置されていると思いますが、それに基づいて、この懇話会で議論して県内を広域的に境界線が引くというのは良いのでしょうけど、全国で検討されていることを、兵庫県に当てはめると少し合わないことが多い。特に兵庫の北側は全国で考えられている水道とは少しもの違うのではないかと考えます。

これまで、水道というのは都市型の水道、市街地の水道というかたちで、全国おなじような水道システムを作っていこうと走ってきたと思います。だから、お宅があれば、そこまで水道の管を引かなくてはいけないと考えてしまっているんだけど、今後人口がどんどん減っていくと言うと

きに、どこまでシステムの末端の家にまで水道管を持って行かないといけないのかと、それは本当にそうしないといけないのか、疑問になります。逆に、人口が減少していく中で、あるところで水道供給のサービスを切るというような判断や考え方もあっていいと思います。

厚労省ではどこでも水を管路で送りましょうというような考えがあると思いますが、兵庫県の中で、このような概念を取っ払わないと、今後 20 年、30 年先に水道事業そのものを維持していくのが難しいのではないかなと感じています。だから、単にブロックで区切るだけでなく、ブロックの中においても、ある程度人口が集約しているところは良いとして、そうでないところに対して、これまで通り同じ水道を全国同じような基準の水道を持っていくというよりは、水質を維持しようとするのであれば、ある程度小さな水道システムでまとめるとか、昔の井戸を復活させるとか、何か別の水道システムにシフトさせ、概念そのものを変えていかないと難しいのではないかと考えます。それがこの委員会でできるのかは難しいけれど、基本的には、上水道の下には簡易水道とか色々な仕組みがあるし、これまでの都市型の水道事業じゃない簡易水道的な考え方がうまく行政のシステムとして行えるのであればそういうものを入れていくような手立てを考えることが大事だと思う。

あと、事業統合のできる範囲できない範囲が地域によって違う。阪神地域ではある程度、狭い範囲に複数の事業体があるので、既に緊急連絡管としてつないでいる管路をうまく使ったり、隣接する他の市町の管を新たにつないでいくことによって、統合していくということの可能性はあると思うけれど、逆に阪神より北の地域においては、それぞれの水源もばらばらのところで統合するというのは非常に難しいという感じがする。その地域においては、系統的な考え方しか難しいと考えている。

ただ、どの範囲でブロック化していくかということにおいても、あまり基準がこれまでなかったのかなと思います。

今、県内一水道という形で大阪や香川はうまく厚労省の思いに則ってがんばっていますけれども、やっぱりそれは狭い範囲に水道が集約しているからですよ。

だから一水道としてやっていけるんだけれども、県内で考えると、そんなにすごい広い範囲にあるものを一つにするなんて到底むりなんで、どこでやれば、どこで切れば一番水道としてのスケールメリットが出てくるのかと言うことの基準を、我々にはまだわかっていないから、できれば、表に料金体系とかを並べるだけでなく、どこでどういう基準であれば、経営的にも料金的にもメリットがでてくるのかということ、この委員会で、見せてほしい。

そうすると、目安をこの後、この懇話会が終わった後に、何らかの統合の話が進んでいくときのいい話が進む基準になるのではないかと、気がします。

もう一つ欲を出せば、ここの委員会でこれだけ市長レベルが集まって話をするって、今後機会を作るのが非常に難しいことだと思う。

この懇話会で出てくる報告書が、強制力がなくても、かなり県として切り札になるような報告書ができれば、その後、うまく広域連携につながっていくんじゃないかなと、広域連携をしていこうとするとすごく時間がかかることを理解している。

その上では、実効性をもたせるためには、この懇話会と平行してなり、この期間内に少しは、統合が検討できるようなモデル事業的なものを、進めながら、そこにおける問題点等を出していく方が、この懇話会が終わった後に、県全体で、広域化っていうところの話にできるのではないかな。

非常に広域化しようモデル化しようと思って、どこがやってくれるかという手を挙げてくれるところは少ないと思うけれど、モデル事業としてあげるのであれば、事業がうまく進まなかったときのフォローと事業としてするための、何か乗ってくれるようなものをうまく県の方でやってもらう必要があると思うけれど、何かそういう実効性を持たせた物を考えないと、漠然と話をするだけでは、もったいないと思うのでその辺はお願いしたい。

## 構成員

人口減少の論議がまだ起こってない状況の時に、簡易水道の制度がなくなっていくということになりました。簡易水道というのは、それぞれの簡易水道で全部顔があるんです。5,000人未満のところ、どちらかというと田舎の水道の施設です。給水人口が少ないのに経費がかかるというのは事実です。従って、国の補助制度は比較的充実していました。そういう制度が無くなっていったという認識は、現実としてあります。

私どもは、例えば三つの町が合併して多可町という町ができました。上水道だけであった旧中町という町がありますが、そこはあまり心配ない。上水道だけ抱えておられる自治体はそんなに深刻ではないと、思っています。

簡易水道を上水道に統合しなければならないという自治体については、いっぺんに経営問題が深刻化をするというふうなことになってきた。たぶん認識は同じだと思います。これがまず1点です。

それと2点目は、経営努力のしようがない、という部分がある。こんなこと言ってしまうと終わりですが。そういう部分があります。これは、もっと簡易で安全で水が飲めるという仕組みができるのであれば、これは一つ、いいと思う。そういう方法を研究されている先生方がいるのも事実である。

いろいろなお話を聞いているところです。

それと、私、先ほど料金の問題を言ったのですが、誤解していただきたくないのは、安くしてくれと言っている訳では決して無いのです。

これ以上上げなくて済むように一緒に考えていただけませんか、ということです。

私のところの住民の方もそうなんです、「私のところ料金高いですよ」というんですけども、住民の皆さんは高いのはわかってると思っている。

でも、許容範囲の幅の高さだと思っている。ところが、実際にあけてみるとそうでないという状況が数字で示さなければならないという状況になった。それをさらに上げるということになったら、ものすごく抵抗が出てくる。

したがって、下げてほしいと言ってるわけではなく、今の料金をさらに上げることにならないように一緒に協議をいただきたい、ということなので、どうぞ誤解の無いようにお願いします。

## 構成員

議論ということではなく、私も、皆さんのご意見を聞きながら、勉強にきたつもりです。

そういう意味から、今、町長さんが言われた思いが私も近くに住んでいるので、北播磨ですから非常にその悩みというのがよくわかります。

しかし、私たちはこの懇話会で検討すべきことは、現実を直視して、コストを上げない、あるいは安くする。維持管理もして、高くなったとしてもそれを吸収する。そして、クオリティも確保する。というQCDの何を優先するかを決めないまま、それを画一的に検討するとなれば、私たちの懇話会は暗礁に乗り上げるのではないかという気がする。

あまりネガティブなことを言っているのではなく、ひとつは市民住民の価値感をどう醸成するとか、価値観の変化、多様な価値観を認めるかどうかということ。確かに今の料金は、ちょっとあげるとどうして「うちはどうして高いの」。他のコストで、たとえばスマートフォンで一人7,000円使い、家族で数万円使い、都会では駐車場代金を使って、帰ってきたら、無料である。

その水の価値と、そういう賃借料とかの価値というものを考えていきますと私たちはそういう面では、水道代は少し高いけど、とってもおいしい水を安全に、しかもいい空気を吸いながら住むのが、この地域の良さなんだよ、ということ为首長というか、行政経営者としてPRして、説得ではなく、納得させていくということが大事である。だれもが仲良しクラブというわけにはいかない社会である。

そういう意味で、モデルケースでやるというのは非常におもしろいアイデアだと思う。

でも答えは少し見えているようで、シュミレーションすれば、そんなに難しい会計ではない。簡単なB/S、P/Lで判断しても単純に出てくるはずである。

問題は私たちは、本当に水が高いか安いかというと、今よりも少しでも高くなると、ものすごく高く思ってしまうのですけれども、何と比較して高いのかと考えたとき、それを認めなくてはいけない社会の中で。

たとえばビジネスの世界でどうするかというと、たとえば小野市が供給する水は、上水道を循環させて、もう一度上水を使うという機械がどんどん出てきている。

それから、今回、熊本の地震が起こったとき、どうして2時間もご飯が炊けるのを待ったのか。

小野市には400余りの井戸がある。そのうちの170を管理しているけれども、それは、基本的には、その170の井戸を緊急時の風呂とかにつかったらいいと思っている。今、そこに簡易な技術がある。つけると、すぐに真水に変えることができる。

真水があって、米が近くにあれば、2時間並ばなくても、瞬時に全ての人が、遠いところから送ってもらわなくても、一時間以内に全ての市町村でご飯を炊くことができ、水を飲むことができる。そういうコンパクトなコミュニティの中で水を作り出すという、創造的な戦略というのがあると思う。

それを画一的にというよりもっと、どんどん技術革新してますから、水をもう一度循環していくという施設を考える。

各地区に井戸の水を明快に真水にする施設、機械があります。そういうものを地域に置くことによって、管を引かなくても、私たちはずっと井戸水で育ってきた経験から言いますと、そこは都会にない強みがあるんです。

ですから、今、こんな単純な物ではないと思いますが、今のままでいたら、償却負担が増えてコストプッシュになって、人口減少、すなわち水道の先が見えないということになりますが、コミュニティバスもそうなんです。あれは交通政策と言わずに、福祉政策だと思えば、たった一人しか乗ってなくてもコミュニティバスは走らすということをやっている。

交通政策と思うから、費用対効果で「乗ってないのに、あんな空のバスをなぜ走らすんだ」という話になるけれど、あれは福祉政策と考えれば、一人でも乗りたい人がいるから乗せる、というのと同じように、水は同じような画一的な戦略で供給し続けるより、そういうシステムを開発するという、それで地域に根ざした地域の特性を生かした、タイムリーな、上質な水を送る仕組みを、あるところでは考え、あるところでは巨大な施設でやり、あるときは循環システムを使うとか、「イノベーション」というキーワードをいかに水処理施設の戦略の中に取り込んでいくかということをしなれば、私たちの行政というのとはにかく、コストプッシュになった負担分は価格転嫁しよう、議会承認しないと結果的に財政が苦しくなる。ないから補助金を国に頼む、何とかお願い。国には一千兆円の借金がある。無理だ。堂々巡りをし、結局困るところだけが残されていくと言う。

それぞれがそれぞれの地域の強みをだした、そういう物に対応できる水道戦略というのを考えるべきではないかというのが思いである。

この懇話会の打ち合わせは必ず県下29市が、私は学ぶことになると思いますし、私は画期的なことだと思います。でも議論するなら何に絞って議論をするのか、そこがはっきりしないと、私たちの答えはぼやっとした形になって、結果的にアウトプットするものもぼやっとなる。

## 座 長

一応一通りお話をいただいたと言うことでよろしいですか。

それで今日は兵庫県の方から部長級の方も、お二人出席していただいて、五味委員は欠席ですが、五味委員からご意見をいただいているということなので、どうぞ。

## 事務局

急遽ご欠席になられた五味委員からご発言予定でありました2点をおあずかりしておりますので、事務局から紹介させていただきます。

水道事業は、各事業体が個別に経営しているため、給水実態も異なっており、パワーポイントで説明がありましたけれども、水需要とか、施設の状況とか料金水準、経営状況等、様々な格差が生じているということでございます。個別の統計からはわからないところもございます。

例えば、料金水準とか、経常収支比率などの問題がある場合、当該事業体がとるべき対応方策を検討するときに、1つには、設備投資状況とか2つには耐震化の実施状況。3つには、繰出しを含めた料金水準の妥当性、4つには地理的要因や人口動態など所与の要素による影響などは正確にです、要因分析をする必要があると考えているというのが1点目。

2点目の発言予定は、先程、経営戦略の話が出ましたが、総務省からも公営企業の中長期的な経営基本となる経営戦略の方ですね、策定して、それに基づく計画的・合理的な経営を行うことにより経営基盤の強化、財政マネジメントの向上を事前にするということで要請されていますので、当懇話会におきましても、各市町の現状分析にとどまることなく、中長期的観点から、将来予想先ほどの水需要とか、施設状況とか、料金水準、経営状況のお話がありましたけれども、各市町が抱える課題を十分把握することが不可欠である。

そういう意味からも、既に将来見通しを含む経営戦略を、策定済み、また今後策定予定の要件団体においては将来必要な対策を検討していると思われまますので、知見を生かすことも必要ではないか。また、未策定の団体についても当懇話会を参考にしながら、早急に経営戦略を策定していただくよう、担当課を通じて、助言してまいりたいので、ご協力をお願いするとの内容です。

以上の2点がご発言の要旨ということで、お預かりしておりますので事務局からご紹介させていただきます。

## 構成員

今、皆さんがおっしゃった基本的なことは、やはり水というものに対して、どうやってプライオリティを作るという話なんですけど、安全な水をいかに供給するかということが第一で、そのためにはやはりその前提でコストダウンをいかに図るかという大きなコンセンサスがあるのではないかとするのは皆様にお聞きして思いました。

## 構成員

一つはガスとか電気とか、いわゆる社会インフラと言われるやつとなぜこんなに違うのかなということが一つです。

極端に言えば、おそらく、人間の生命を維持するために、最も必要なのは水、そのための水道というのは最も必要な社会インフラであるべきであって、おそらく住民に等しくその社会インフラの提供があって、できれば低廉で、均しくなり、それが行き渡るというのが、一つの考え方であるが、しかし歴史的過程で、その電気とかガスがない時代から、水が生命を維持するために、必要であるがゆえに必死になって、各地域で水源を確保して、川であったり、井戸であったり、そういうことでずっと歴史的な蓄積があるので、その地域性を無視ができない状態、一つの側面であると思います。

ですから、岸本委員・戸田委員が言われてましたように、地域創生とか、生命の維持を考えた場合には、もっと低い価格で、等しく皆に行き渡るような仕掛けを作るというのが一つの考え方であると思いますし、地域創生をすすめる中で、できるだけ都市への一極集中を排斥していこうとしている中で、地域によっては割高である部分は、国家的あるいは、一般会計からの繰出しで、対応す

るのもあると思います。

いずれにしても、歴史的過程を踏まえた地域性ということも考えたら、今日のご意見の中でなんとなく意外とすれば、流域とか地域ごととかそういうところでの、一団の集まりというのは、やはり大きな存在として無視はできないだろうという風なところは感じたところです。

そのあたりをもっと議論して、こんな大事なものがなぜそんなバラバラであり、赤穂と篠山の金額の差、13枚目の資料ですけど、これだけの差が現実にあって、これをそのままにしといていいのか問いたくもなりますし、先ほど言われましたように、地域創生をすすめるにおいて基礎的なことが、なぜ均等にサービスとして提供されないかと疑問はあって然るべきだと思います。

水道料金が違うことが前提ですが、本当は原則的にそこから問いかけたいと思っています。

水道事業は特殊性があり、各地域の工夫が、大事で、地域間のそれぞれ取組みを前提として、議論をしていく中で一定の方向性を探っていきたい。

その中で、考えなければいけないのは、社会資源をいかに有効に活用していくかということ観点は必要だと思いますし、人口減少社会のなかで、どうすれば、効率的に社会資源を活用できるかという観点だけはもっておかないといけないと思います。

## ② 今後の進め方について

### 座長

今日は、ご意見をできるだけいただき、また7月に次回が予定されています。

次への、一応まとめを改めてさせていただきますが、一般論を申し上げて恐縮ですが、基本的には、兵庫県の市町のうち、21の市町が人口が半減する。

その一方で、兵庫県は、日本の縮図であって、過密地、過疎地があり、それを一体的にできるかという議論の中で、広域化、あるいは、ブロック化、ブロックでも六つの国で分けるのか、水域で分けるのか、あるいは水源で分けるのか、いろいろな発想があると思いますが、答えが出ているわけではありません。

その一方で、今の議論にありましたように、経営学ではQCDの議論です。

その一方で、安全・安心、安定供給、これも一つの物差しになろうかと思っています。

コストがかかるということは、価格も自動的に上がりますが、例えば、国鉄JRの赤字ローカル線が廃止されていったように人があまり住まない場所は水道廃止していいのかという議論ですが、これは経営的に考えるのかあるいは社会保障的に考えるのかという議論であると思います。

蓬萊委員がおっしゃったように確かに玉虫色の懇話会になってしまうと、なんとなく着地点を見つけるようになると思います。ほわっと、まとまるような形になろうかと思っていますけれども、県で、懇話会や審議会を100以上しておりますが、なかなか結論が最初から見えているような会議もありますが、今回は、冒頭から大変だということで、懇話会形式もいくつかさせていただいてガチンコ形式もいくつかさせていただきましたが、今回は大変だと思っています、私は、あくまでも、公企業経営という立場で、知識はあるつもりで発言します、方向性を明示したいと考えています。

いずれにしても、時間がかかりすぎるかどうか別にして、3年間の懇話会で、今年ではできるだけデータを集めて、できるだけ問題点を洗い出して、どういうことが可能なのか、何を議論していくのか、石井委員がおっしゃったように赤穂と篠山でこれだけ差があるというのは、このデータを県民の方が見ると、なんやねんと思います。

知らないから何も言いませんが、ただこの料金の問題ですが、例えば他の都道府県、例えば北海道と比べてどうなのかあるいはグローバルスタンダードですね。海外に比べてどうなのか。

安かろうまずかろう品質がだめになったら、たとえコストを或いは価格が下がっていてもそれはまた、いわゆる安定に供給されても、安全に供給されるかどうかわからない全く私の今の発言はまとまってませんが、それだけ問題点を抽出していくと、難しく、複雑な問題だと思っています。

いわゆる複雑系の分野にあたると思います。じっくり、しっかり、ここで議論させていただきたいと思しますので、今後ご協力お願いします。それでは、次に進めさせていただきます。

今後の進め方についてお願いいたします。

## 事務局

今回は今回と同じように現状分析を示させていただいて、皆様方からご意見をちょうだいするという形になります。

## 座長

おそらく9月になろうかと思いますが、方向性ということですが、議論をしぼるのかしぼらないのか、今日ちょっと出てましたけれどもそういう方向性を9月の段階でまとめさせていただければなと思っています。

方向が決まれば、12月と2月の会議でできれば、29年度30年度に具体的な協議に入る前の、それがモデルになるのか、やっぱり方向性になるのか。

ちょっと現状ではわかりませんが、何かを示させていただけたらなと思います。

いずれにしても今日は皆様方からご意見をちょうだいして、おそらく7月も皆様方からご意見をちょうだいすることになろうかと思っています。

どういう形で、次回、この場でご報告内容をさせていただくか、あるいは、具体的にどこまでまとめていくかはその都度、私座長としまして、まとめさせていただきながら、ご報告させていただきます。

さしあたって次回につきましては、次回の論点につきましては、今日の論点をふまえて、どういうことを市町事業の現状を報告していただくのかを決めさせていただきたいと思えます。

一旦、ご一任いただきたい。

## 構成員

一つですね、次回議論すべきこと、今後の議論すべき方向性はよく理解できました。

現実問題として、今、さっきでございましたけども、海外で例えばイギリスもフランスもそうですが、国家として一本として民営化していますが、大阪市は橋下政権も含めて堺市長と話をし、この議論になりましたが、要するに、同じようなことが全国であり、悩みは一緒です。取り巻く環境と規模が違うだけで。

そういう状況は、今現在どういうところの大きな課題になっているかは、参考にはなる。決して真似をするということではなく。

我々は、地域特性があると同時に、兵庫県は兵庫県としての主体性がある答申ができればいいと思えます。すでに同じ様な状況でやっているところがあると思えます。

その状況は事務局で、いいか悪いかということではなく、こういう議論の中で、困っているとか、実は明るい光が見えているとか、そういう話があるとかであればいいと思えます。

ネットを見れば議論がでていますが、しかし都合のいい話しか載っていないが、本質をえぐり出したような情報を掴む方法はないのかなという気がします。

## 座長

私は料金のことだけで言ってしまったかもしれませんが赤穂と篠山で差があって、料金ことだけで言ってしまうことを理解していただけなかったと思えます。

それを他の都道府県と比べてどうなのか、グローバルと比べてどうなのか、少しグローバルと比較するのは条件が違うので難しいと思えますが、他の都道府県、他の市町村とは比較はできると思

ます。それはできるだけ、お示しができたらなと思います。大阪府や香川県は小さいのでできやすいのかなと思います。それが正解かどうかは、別としてそれが本当なのかどうなのか、いろいろな問題が出てきます。

### 構成員

香川にしても基本的に水源がない、徳島から一本の用水を利用して各市町に送水している。もちろん自己水源を持っているところもありますが、少ないです。既に用水管路網があるので統合しやすいというのが背景にあると思います。大阪も、大阪市以外の市町は、大阪府の広域水道企業団から受水をしている。そういうところが多数あるので、用水利用だけでなく、末端供給までしやすい環境はある。だから、もともとのシステムができあがっているところとできあがっていないところで少し話が変わると思います。

### 座 長

いきなり振りました、ちょっと私不勉強で申し訳ないんですけども、赤穂と篠山でなぜここまで違うのか、単に規模の経済だけの問題ではないと思います。

### 構成員

赤穂は水源をとって、工業用水を高く売って、それを市民に還元している。

もともとの水源がきれいで、浄化するのにお金がかからない、いろいろの取り方があった、例えば、阪神から淀川から引っ張ってくるときに、パイプを通してやる、他のところはダムをわざわざ作って引っ張ってくる、いわゆる原価が違ういろいろな違いがでてきているというのは、今、本県の実情で、ですからその差が、いろいろな地域にでてきているそれが極端に価格を統一するところまでいくのは極端な案ですけど、地域特性をどのように加味していくのかは、議論になると思います。

### 座 長

それも含めて、問題提起をしますし、調べて内容をここでご報告をさせていただきますし、今事務局が話したように事前の説明のときにもそういう事を示しながら、できるだけどういう資料を出すかご相談しながら進めていきたいと思っております。

### 構成員

前県土整備部長の浜田さんが私を訪ねて来られて、今日は何の話と聞くと、水道事業の大変難しいものがあります、とその時に話しましたが、例えば水源の話ですが、我々だったら、一つは井戸・県水・ダムという水源が1/3ずつまんべんなく水源をリスクマネジメントの観点から分散化している、という話をした。その時に池の話になった。

小野市には、全部で400ほど池がある。昔だったら農業をする時に水を張るのに1ヶ月間かかる。

これから6月10日前後に雨が降って、代掻きしてやっていく、だいたい1ヶ月くらい水を張っていかないといけない。

今はどうなのかというと、水が入ると同時にすき込んでその日のうちに田植えが終わる。

水の保水期間というのは短いにもかかわらず、環境問題とか、安全問題はありますが、同じ池が存在して、その池の堤体を守るために、国費、県費、私費を使って池を補修している。しかもそれに、私も含めて草刈りで汗を流している。

農業のシステムが変わって、水の需要が変わって、水の使用期間も短くなっているにもかかわらず、なぜ同じような400、500もの池が存在して、維持管理をし続けるのか。

本当に必要な水はどうか、それで本当に最悪を想定した場合の池の数はどうなのかと環境問題

と防災の観点からどうなのかということを加味しながら、最適解を考えるべきである。

池の各市、町における管理レベルは変わらない。そして、人口が減って、維持管理する人が高齢になっているにもかかわらず、維持管理することすらできない年齢になっている人達が、江戸から続いている池を回り続けて、そこに土地改良も含めて池を直すために金を使っている、これはおかしいと思いませんかと言いたい。そういうことも実は水源の要素になりうるわけです。

安易な、安価な、低廉な水供給の拠点は大きなダムを造らなくてもいけるんです。

でも、池を守り続けるために維持管理や田植えをやって、そして、皆様都会から来て、植えました、おにぎり作って食べました。

その間には水を管理し、草を刈り、水路を維持管理するのが8割であって、植えて、収穫するのは2割の話です。

ただ、それはメディアはそこだけ発信しますから、だからその地域は池が水源としてあって、それを、この良質な水の水源として安価に使っていくか、そして真水に変えていって、水道水に変えるシステムがどんどん出てきている。

そういうことを考えると、私達のコスト低減を含めた、良質な水を作るための戦略は、ものすごく遅れているという気がします。私たちの努力は決してベストだとは言えない。

そういうことを考えると、投資のあり方とか考えていく必要がある。私達日本の水源はヨーロッパとは違う。私たちが気がついていない水源地があって、それをどう戦略的にイノベーションし、真水に変えていくかがコスト低減になって水を維持管理することになり、環境保全がセットとなる。

いろいろな戦略が他にあるのであればと思う。私とは全然違うと言われるかもしれませんが、個人的な話ですが、水道料金を息子の家の分と自分の家の分の2軒分を支払っている。2ヶ月分が2世帯なので、4ヶ月分が引き落としされます。妻が高いと言います。でも横浜に住んでいた時の駐車場の料金よりも水道料金が安いと言います。そのとおりです。だから田舎には田舎の強み、良さがある。

だから都会には都会の苦しさがある。ですから、そこに住む価値としてどこを選ぶかというもう一つの側面が、実は水の維持管理の裏にはあるのではないかと思います。

そこを考えないと色気がないのではないかと思います。

## 座 長

どうもありがとうございました。まだ、今日1回目ですので、今後ともよろしく願いいたします。

## 事務局

委員の皆様方、熱心なご議論、誠にありがとうございました。

今回、皆様方からいただいたご意見・ご質問等につきましては、次回以降の開催いたします懇話会において調整させていただきたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

なお、今回の議事要旨等については、皆様に内容を確認していただいた上で、佐竹座長と相談の上、公表内容を確定させていただきますのでご了承願います。

次回の懇話会は、先ほどご説明させていただきましたが、7月下旬頃に開催したいと考えておりますので、委員の皆様方の日程調整を行っていきたくと考えています。冒頭お話いたしました、第2回の日程調整表ですが、お書きの方は、お帰りの際、事務局までご提出していただければ幸いです。お戻りになられてからお書きの方は、できるだけ早くご提出いただければ、日程調整上、助かりますが、遅くとも明日5/27（金）までにはご回答願います。

できる限り多くの本人出席が可能な日を早くお知らせできるよう努めていきますので、ご協力のほど、お手数をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

本日はお忙しい中、長時間にわたりご審議いただき誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第1回「兵庫県水道事業のあり方懇話会」を終了します。